

平成29年度 第1回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

と き：平成28年5月24日（水）午後3時00分から4時35分まで

ところ：小平市役所6階 大会議室A

1 出席者等

子ども・子育て審議会委員・・・・・・14人（欠席2人）

傍聴者・・・・・・・・・・0人

2 配付資料

小平市子ども・子育て支援事業計画（冊子）

小平市子ども・子育て審議会条例

小平市子ども・子育て審議会の会議の公開に関する規則

子ども・子育て支援法（平成24年8月22日法律第65号）（抄）参照条文

学童クラブについて

保育園について

小平版ネウボラ（ゆりかご・こだいら事業）について

小平市子ども・子育て審議会委員名簿

3 内容

議事

（1）小平市子ども・子育て審議会について

（2）小平市子ども・子育て支援事業計画について

（3）その他

①学童クラブについて

②保育園について

③小平版ネウボラ（ゆりかご・こだいら事業）について

④平成29年度小平市子ども・子育て審議会開催日程・場所

4 上記内容についての意見・質疑応答

（1）小平市子ども・子育て審議会について

特になし

（2）小平市子ども・子育て支援事業計画について

特になし

(3) その他

①学童クラブについて

委 員 学童クラブのスペースはあまり広くなく、自由に過ごしにくいために退会するという話も聞くが、クラブのスペースは広げられないのか。保護者が家にいない子どもたちが放課後を安全に過ごせる居場所作りを考えてほしい。

事務局 小平市の学童クラブは、児童の安全を第一に考え学校の敷地内に設置しているため、クラブ室のスペースを広げることや施設を新設することは難しい。児童数の状況によっては、臨時的に校内の余裕教室を借りるなどしてスペースの確保に努めており、入会希望者が増え続けた場合には新設を検討している。学童クラブ以外の放課後の居場所としては、児童館 3 館と子ども広場 6 か所、学校での放課後子ども教室などを活用してほしい。

委 員 学童クラブと学校、保護者間の連絡体制がうまくいっていないように感じるものがあつたが、連携はとれているのか。

事務局 学校の先生方とは適宜調整している。児童の状況に応じて、臨機応変に対応することが必要な場面も出てくるため、今後も連携していく。

委 員 平成 29 年 4 月 1 日現在の入会状況として、上宿小は定員 40 人、登録児童数 56 人、約 140% の入会率とあるが、それ以上に定員を超えているクラブがある。一小は約 150%、五小は約 160%、十一小学童クラブ第一は約 150%、十二小は約 175%、花小金井小は約 175% となっているが、これらのクラブはどのように対処するのか。

事務局 一小など登録児童数の多い学校は、利用可能な部屋を一時的に使用して運営しており、2 年連続で定員を 21 人以上超えた場合には新設へ向けて検討している。五小は部屋を借りてクラブを 2 組に分け、それぞれに指導員をつけて運営している。十二小も部屋を借りて改修し、2 組に分けて運営している。今後も利用できる教室などを調整しながら、クラブ運営を図っていく。

会 長 それでは、その他の「①学童クラブについて」はご了解いただけたものとする。

②保育園について

委 員 近隣の自治体では待機児童数の推移は、どのようになっているのか。

事務局 横ばいの自治体が多いと聞く。人口の規模が小平市と近い市は、待機児童が 100～200 人前後が多い。

委 員 市がここ数年間で保育園を整備した成果として、4・5 歳の待機児童は解消さ

れている。一方で、市内全体の保育園・幼稚園では4・5歳児合計で170名の定員の空きが生じており、今後も保育園と幼稚園の奪い合いが進み、定員割れは続くだろう。待機児童の問題は乳児クラスで大きいため、乳児に特化した保育園整備をお願いしたい。新規開設されるという花小金井駅周辺の小規模保育施設は0～2歳児の定員が19名のみで、待機児童の解消に大きな影響を与えとは考えづらい。また、小規模保育施設は3歳児以降の連携施設が必要とされているが、最近の園は3歳以上の定員数が寸胴型であるため受け入れが難しくなるだろう。年齢があがるにつれて定員が増えていく公立保育園も、連携先として考えてほしい。

事務局 2号認定は予定を超えて、整備が進んでいる。地域ごとの保育ニーズをみて、花小金井駅周辺地区に小規模保育施設の新設を考えた。連携施設については、幼稚園の活用も視野に入れて協議していく。今後新設をする際には、公立保育園との連携も検討する。今年4月に小川駅近くで開設した初めての小規模保育施設はぐみいは、幼稚園と公立保育園との連携を行っており、モデルケースとして推進していく。

会 長 当初の事業計画だけでなく、ニーズの実体をみながら、小規模保育施設などの開設を考えてほしい。その他の「②保育園について」はご了解いただいたものとする。

③小平版ネウボラ（ゆりかご・こだいら事業）について

委 員 心強い施策だと感じる。子どもを産んだ後、子育ての最中に小平市へ転入した場合、小平市でも支援を受けられるようなつながりはあるのか。

事務局 ゆりかご・こだいら事業の取組みは努力規定ではあるが、国の事業として今後進められていくため、各自治体で同等のサービスが受けられることになるだろう。転入の場合でも、小平市では子育てに不安を感じた保護者に対しては、その地区を担当する保健師が訪問もしている。

会 長 子ども・子育て支援事業計画の13事業の中の、乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）や養育支援訪問事業によって要支援家庭のサポート体制がある。それらに加えて、子どもが生まれる前の妊娠中のサポートも新たに進めていくという事業が今回の「ゆりかご・こだいら事業」だろう。

委 員 妊娠中に問題が起きて入院や手術が必要になった場合、保育園など、上の子どもの預け先の紹介もネウボラに加えてほしい。

事務局 妊娠届が提出された際に、妊娠・出産プランを作成するため、そのときに必要な状況を把握し、妊産婦に情報を提供する。妊産婦が不安に感じていることは、必要に応じて、他課との連携も行う。

- 事務局 1 3 事業の中の利用者支援の窓口として専門員を配置しているため、利用者が必要とする情報の提供や他課との情報共有について検討したいと思う。
- 委 員 産後うつになったときに、市の保健師に相談に乗ってもらったことで悩みが軽減した。妊娠期からの継続したサポートは妊婦にとって効果的だと思う。この新しい事業が妊婦に浸透していけばよいと思う。
- 会 長 ゆりかご・こだいら事業はポピュレーションアプローチが特徴であり、今後は潜在的な不安や問題をとりあげるため全員にアプローチすることで、事前に課題を解消することが期待できるだろう。
- 委 員 現在は、妊娠した人へのサポートはどのように行っているのか。このゆりかご・こだいら事業と現在の事業との違いは何か。
- 事務局 現在は妊娠中に母子手帳を渡した妊婦さんと保健師が面談しているが、全員とは面談できていない。今後は交付した全員との面接を目指しており、市の保健師が、妊産婦と一緒に子育てプランを作成し、出産や育児に対しての不安の解消につなげるということが新しい点である。妊娠期の準備のためのハローベビークラスなどの事業につなげていくことも狙いとしている。
- 委 員 養護施設に入所する子どもたちには、これまでの病歴や予防接種歴が分からない場合もあり、母子手帳の管理がよくなれば、子どもの健康・病状把握につながっていく。運営する養護施設に、保健師を新たに入れたことで、健康により配慮できるようになった。市としても、保健師などを中心に、子どもたちの健康につなげてほしい。
- 委 員 子ども商品券とは具体的には何か。子どものためにしか使えないという使用目的の制限はあるのか。
- 事務局 まだ調整中ではあるが、デパートやスーパーで使用可能で、子どものための商品購入以外にも、飲食等の目的でも使えるものである。5年間有効であるため、商工会などに働きかけて、使える店舗を増やしていきたい。
- 委 員 フィンランドで実施した際の医師会との連携はあったか。
- 事務局 フィンランドでの医師会との関係性はまだ把握できていないが、医師ではなく、保健師や助産師が関わっていくことがメインとなっていると聞いている。
- 会 長 民間企業や医療従事者とネウボラとの関わりは、メンタルヘルスの事業として実施されているようだ。以上で、その他の「③小平版ネウボラ（ゆりかご・こだいら事業）について」はご了解いただけたものとする。